

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

大阪大学 文学部

前期日程

科目

国語(古文)

試験時間	120分	満点(配点)	150点	出題数	現代文2題 古文1題 漢文1題		
総括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
				分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

孝養を説く説話で内容が把握しやすかった。

〈特記事項・トピックス〉

和歌の出題がなかった。

〈合格への学習対策〉

基本的な語法や語句に留意し、内容を読解する力を磨く。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
Ⅲ	説話集	十訓抄(編者未詳)	読み易く内容の把握しやすい文章だった。	やや易

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
Ⅲ	問一	記述	短文の現代語訳	易
	問二	記述	心情説明	標準
	問三	記述	内容説明	標準
	問四	記述	内容説明	標準
	問五	記述	主題の説明(漢字一字)	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

	問四	記述	<p>心情説明。「こう言って」という指示語が指す傍線部直後の母の言葉が父を主体に語っていること、さらにこのエピソードが紹介される前の部分に「母の、父に対する深い愛情～は～その（『私』の）可愛がり方の大きさによる」とあることに注目し、「微笑み」「涙ぐんだ」という二種類の表情に対応する、父に対する母の心情と、そのような心情の生じる理由を説明する。</p> <p style="text-align: center;">(解答欄 18.3センチ×3センチ)</p>	標準
	問五	記述	<p>内容説明。「路地」という比喻表現の説明がポイントである。「路地」は「人家の間の狭い道」であり、幼時のエピソード中にも場面として出て来る語句である。「私という人間の中の路地」は、父や母の愛情に育まれて成長した「私」の通ってきた一過程としての幼児期であり、「私の幼いうしろ姿は～路地に帰って行った」のだから、リアルに思い浮かべていた姿が再び思い出の中にしまわれたということである。</p> <p style="text-align: center;">(解答欄 18.3センチ×3センチ)</p>	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。